

# 元力新聞



ブルーホール・グアム

## 向<sup>ひ</sup>日<sup>ま</sup>葵<sup>わり</sup>

「あなた方は「地の塩」である」とイエスは言われました。塩とは生きて行くのに無くてはならないものの一つです。また、塩によつていろいろな味付けがされておいしく食べられます。私たちはそのような大切な塩のようなものだとイエスは言われました。

もう11年前のことです。わたしは一人でネパール・ヒマラヤのトレッキングに出かけていました。あこがれのヒマラヤの中をガイド1人、コック1人、ポーター3人の私専用のシェルパ5人とヒマラヤ牛の「ヤク」3頭を連れていました。たった二人の旅にこれだけの世話をしてくれる人たちがいてまるで大名旅です。そして3日目、ついに世界の山エヴェレストが見えてきました。ナムチエ・パサルです。そこはすでに標高3800m、そろそろ高山病の症状が出ています。そこから3日かけてさらに標高5000mまで行きました。その地点で高山病がひどくなつてとうとうダウンしました。テントの中に寝ているだけで、頭はがんがん、眼玉を動かしても吐き気がする、ここでは平地に比べ、空気が半分ですから苦しんでまったく食欲も無く、まる1日寝ていました。翌日、少し動けるようになったので、現地の家に行き、ネパール・ティーをいただきましたが、あまり口に入りません。そのときふと、3年前、トライアスロンのレースをしていてバテかけたときに塩を口にして元気が出たことを思い出し、「塩をください」といいました。シェルパは指先ほどの大きさの岩塩をくれました。岩塩をかじり、飲み込んで胃に入ったとたん、急にからだは温かくなり、気分が良くなつていくのがわかりました。特にあの何とも言えないむかむかする吐き気が無くなりました。「これだ!!」と思いました。あのイエス様の言われた「塩」とはこのようなバテバテになった体にも生気を回復させる、まさに命の素になるほどの作用を持つ、無くてはならないもの、特に今、苦しい、悩んでいる人にとって大切なものです。

イエス様は私たちに「あなた方は「地の塩」である」といわれました。私たちはそのような力を神様からいただいていることに気づかねばなりません。そしてさまざまな場面で神様のお力さえによって「塩」の働きを成したいものです。

# 院長医療経済を語る

院長 宇津宮 隆史



昨年、熊本県の白水村が不妊診療を受けた患者さん<住民>に補助金を出すことを決めたと報道されました。そして今年に入ってから、同様の補助を全国で松本市やその他の市町村数カ所でも決定したようです。

ご存知の通り、私たちは開院以来、不妊症診療に対する保険適用を訴えてきました。学会発表や講演会、論文などでもうすでに数10回は訴えてきたでしょう。7年前、日本産科婦人科学会の理事、評議員などの先生方に直接、訴えの手紙を書きました。しかしほとんど反応はありませんでした。一時期、国家予算まで組まれたという情報が入ってきましたが、それからもう5年は経ちます。

原因は何か。まず、不妊症について国民のみんなが知らないからです。切実に子供が欲しい、そのような不妊夫婦が10組に1組の割合でいることが知られていません。また、このような不妊症のつらさは、そのような人がいることは知っていても、子供のいる人には関係ありませんからすぐ忘れ去られてしまいます。もしこれが老人問題などであったら、近い将来、確実に自分も関係するはずですので真剣に考えようと思します。しかし不妊症の問題は現在子供のいる人、まだ子供が欲しいと思っていない人には関係ありませんから無関心で終わります。

また、不妊症について知ってはいても、いくつかの理由で保険適用に反対されています。まず、体外受精などは「特殊な治療」であるからという意見です。しかし、人工透析や心臓カテーテル手術も特殊な治療法で保険が適用されていますので理由にならないと思います。また、体外受精は「妊娠率20%くらいで成功率が低いから医療とは言えない」といいます。しかし、自然妊娠の頻度は一回の排卵につき、18-35%といわれています。よって、体外受精の成績は不妊でない人の自然妊娠率と匹敵しており、極端な人工的操作（たとえば妊娠しやすい人だけに体外受精をする、多数の受精卵を移植するなど）をしなければこれ以上は妊娠率が高くなることはないはずです。

また、不妊症は痛いわけでもなく、「生命に危険がないから」という意見もあります。しかし、そのような疾患でも保険で治療されている場合はたくさんあります。精神科

疾患はその最たるものでしょう。

さらに、子供は「授かりもの」だから自然にまかせ、治療は必要無いとも言います。生命も「授かりもの」です。そう言う人でもその人の生命が侵されるようになったら、自然にまかせるのではなく、必死に治療してもらおうでしょう。

このように不妊症治療に保険が適用されないのはおかしいことです。

かなり以前、老人医療費をすべて保険でまかなうという自民党の意見に医師会はこぞって反対しました。保険財政がパンクするのは明らかだったからです。しかし自民党は選挙前でしたので強引に通しました。その結果、各地に立派な老人健康施設ができました。しかし、そのために財政は赤字となり、現在は四苦八苦しています。このような現状ですから新たに支出を要することは極力避けられています。しかし、試算によれば、年間500億円くらいあれば体外受精が全部保険でまかなえると計算されています。あの無責任極まりない金融不良資産の救済に数十兆円もかけるのに比べると微々たるものです。

また、日本の医療は世界に比べて質が低く、料金がかかりすぎ、外国に比べ、国民の満足度が低いといわれています。しかし、毎年、国際学会に出席してみても、またいろいろな本などから情報を調べてみても、日本の医療は世界ではトップレベルにあると思います。また、医療費は先進国の中では最も安く済んでいると思います。たとえば、アメリカでは初診料110ドル15,000円、日本2,100円です。またアメリカでは初診時に診察後、1時間くらいかけて十分な説明があります。それと日本の「3分診療」を比べてマスコミは比較報道します。しかし、それは綿密な「契約」を行うためであり、さらに説明の費用は300ドルくらい請求されます。また、CT検査はアメリカで14万円くらいですが日本では25,000円くらいです。アメリカで心臓の手術をしても1週間くらいで退院します。日本では1ヶ月以上でしょう。分娩ではアメリカは分娩翌日に帰ります。日本は1週間くらい入院してゆっくり静養し、いろいろ教わって退院します。それらはすべてアメリカでは入院費が目

の飛び出るほど高い（1日800ドル10万円、日本1,700円）からです。しかしその点を述べず、ただ入院期間の比較だけ行って日本は入院期間が長いから医療費が高いと非難しています。

また、日本では薬や医療器具の値段が高く、手術などの手技料が安いので相対的に薬剤費の占める率が高くなっています。国際学会に出席したときに外国の出席者に聞いたことですが、排卵誘発に用いるホルモン剤（HMG）の日本での値段はアメリカの3倍、台湾の2倍です。体外受精をするのにたとえばHMGを2週間注射するとしますと、日本では56,100円でアメリカの17,000円の3倍です。また精子を測定する器具を開院時16万円で購入しました（本当は20万円だそうですが）。サンフランシスコで同じ物を4万円で売っていたので3個買って帰りました。腹腔鏡検査に用いるある器具は日本で60万円でしたが、シドニーでは1,000ドル12万円で買えました。このように日本では、医療経費が高いのは、医療を行う技術よりも医療器具や薬剤が外国に比べ、信じられないほど高額だからです。日本では病院はどこも赤字で困っています。そして儲かっているのは製薬会社と医療器具の会社です（族議員がいる？）。マスコミはそれを知っていて言わないだけです。

体外受精の値段は、2年前に当院に来て講演したコロラドのDr. D. Gardnerのところは一回80万円、3年前に来たテキサスのDr. T. Poolのところでも80~100万円と言っていました。（ただしアメリカでは民間保険会社が利用できます。しかし保険会社に認めてもらうために病院側は良い妊娠成績を出さねばなりません。低い妊娠率の病院には保険がおりません。そのために妊娠しにくい人は断られたり、高齢者（35歳以上）は若いひとの卵子を提供させられたりしています）

8年前、当院では体外受精を開始するにあたって、経費がいくらかかるか計算してみましたところ、採卵以後、薬剤や使い捨ての医療器具、培養液などだけで1回につき、合計13万円かかることがわかりました。これに人件費（体

外受精のスタッフを育て上げるのに2年はかかります。その他にナース、カウンセラーなども含めると一回の採卵だけで7~10人が働いています）、各種医療機械の償却費（超音波装置1台400万円、培養液を作る超純水装置300万円など・・・）や、建物の経費（クリーンルームは完全無菌空調装置を採用し、それだけで2,500万円、体外受精を行う研究棟は合計2億かかりました。理想的な環境で体外受精を行うためです）などを加えると1回につき50万円は妥当な料金と思います。（当院では18万円、妊娠したら30万円追加ですが完全に赤字です。）

保険適用となると以上のような項目一つ一つを分析し、妥当か否か判定し、ほかの医療費との兼ね合いを討議する、など多くの問題があります。また、政治的なこともあり、なかなか解決しそうにありません。むしろいっそのこと、白水村のように大分県内のどこか小さな地方自治体で先鞭を切って補助を出してくれる所はないでしょうか。不妊治療を、お金の問題で止めざるを得ない、または体外受精を行う回数を限らねばならない、このように経済的な問題で病気の治療をあきらめなければならないこともあるのが日本の不妊治療の現状です。これは先進国の面子にもかかわると思います。

それだけでなくも少子少産時代と言われているのです。赤ちゃんを生んだらいろいろな補助がもらえるのに、そのために努力している段階で何も補助が無いのは不公平と思います。

私たち医療側はあらゆる機会をとらえて今後も不妊診療のこのような問題点を広く世間にアピールし、日本産科婦人科学会のお偉方や政治家に働きかけていきたいと思いません。そこで患者さん側も機会をとらえて、たとえば新聞に投稿するなど、何らかの働きかけをしましょう。とにかく私たち当事者が積極的に世間に向かって、不妊症で困っている人が国民の10%もいることを訴えましょう。他人任せにせずに。



# 「カウンセリング行ってます」

心理士 上野 桂子



はじめまして。四月からセントルカに勤務させていただいています心理士の上野桂子です。大分生まれの大分育ち。しばらく大分を離れていましたが、十年前にまたふるさとに戻ってきました。今は、家族四人と犬二匹、ハムスター一匹、金魚三匹、亀二匹、その他熱帯魚多数と一緒にひしめき合っ暮らしています。

趣味と言えほどのものはありませんが、海外のミステリーを読むのが何よりの楽しみで、話が佳境に入ってくると時間も忘れて没頭してしまい、家族の躰をかっています。このごろもうひとつ楽しみが増えました。海外で活躍する日本人選手を応援することです。テレビのニュースや新聞で、イチローや中田などの活躍を見ると、ほんとうにうれしくなってしまう。

ところで、心理士とかカウンセラーと聞くと、なんだか心の病に罹った人とかものすごく深刻な悩みのある人が対象なのかな、と思われがちなのですが、そんなことはありません。毎日の生活のなかで感じるちょっとした悩みや心配事、自分の気持ちなどを誰か差し障りのない人に聞いてもらいたいときや、何かについてどうしたらいいか迷ったときなどに、一緒に時を過ごしたり考えたりするのがわたしたちの仕事だと考えています。もちろんお話の内容は許可なしには誰にも漏らすことはありませんし、職業上許されません。皆さんも悩み事があるときに、友だちに話を聞いてもらって気持ちが軽くなったり、何となく整理できたりしたという経験があるのではないのでしょうか？実は、カウンセラーの仕事もそれに近いものなのです。口の堅い友人、先輩、お姉さん(?)みたいなものと考えていただければ、と思っています(先生の悪口、夫や家族の愚痴、いろいろな不満などでもOKです)。お気軽に声をかけてください。

「女の人の味方になってください。」院長先生のこの一言でこちらに伺うようになりました。まだまだ解らないことも多く、患者さんの大変さ、様々な悩み、孤独、先の見えない不安などに触れるに連れ、何か少しでも私でお役に立つのだろうかと思ひ迷いながらのスタートですが、院長先生の患者さんを思う気持ちに少しでも添えるよう、常に患

者さんの味方、伴走者になってられるように看護婦さんやスタッフのかたがたと一緒に頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



## 経 歴

【氏 名】 上野 桂子 (うえのけいこ) (女)

【生年月日】 昭和31年6月11日生

【現住所】 大分市

【学 歴】

昭和50年4月 広島大学教育学部心理学科入学

昭和54年3月 同学科卒業(文学士)

【職 歴】

昭和54年4月 大分大学教育学部附属養護学校非常勤講師

56年4月 日田市立日田養護学校教諭

57年4月 大分大学教育学部附属養護学校教諭

60年4月 茨城大学保健センター非常勤講師(心理カウンセラー)

平成3年4月 茨城女子短期大学非常勤講師(「心理学」担当)

9年12月 大分県中央児童相談所嘱託(心理判定・相談員)現在に至る

13年4月 大分市保健所(幼児健診心理相談員)

13年4月 セント・ルカ産婦人科(心理士)

# 社員旅行 パート1

# 社員旅行 IN 湯布院

2001年5月19日～5月20日



風薫るさわやかな5月、私たち職員9名は湯布院へ1泊2日の旅行へ出かけさせて頂きました。大分の町よりも若干涼しく天気は快晴、絶好の旅行日和でした。宿泊は湯布院の数あるホテルや旅館の中でも、和風の良さを十分に取り入れ、さりげなく洋風の雰囲気漂う、落ち着いた趣の旅館「はな村」でした。1部屋に1階と2階それぞれ二つずつのベッドがありとても豪華な部屋を用意していただき感動しました。更にゆっくりと温泉につかり、上げ膳下げ膳で、和洋折衷の美味しい料理を堪能できました。夜は金鱗湖付近の川へ<sup>螢</sup>探索に出かけ、数匹の螢に遭えました。普段ほとんど見る事の出来ない光景に、しばし身体が止まり、うっとり見とれてしまいました。県内という事もあり時々ドライブがてらに出かける事もありますが、今回は日々の忙しさからひととき開放されて心の洗濯をさせて頂きました。1泊2日の小旅行でしたが、皆それぞれとても満足して帰途に着きました。院長先生、奥様本当にありがとうございました。

# ✿ 研究室だより ✿

研究室では卵・精子のお世話の他に、1人1人がテーマをもって日々研究に励んでいます。今回はその中から、平成13年8月4～7日に開催される「An ART Odyssey 生殖補助医療の挑戦と方法」(ハワイ)にて発表予定の3題を紹介します。

## ✿ 体外受精反復無効例に対するHatching ETの試み ✿ 研究室 長木美幸

下記の写真は、体外受精卵の成長の様子を示しています。ほとんどの施設では、受精後2～3日目で子宮へ移植を行っています。しかし、きれいな分割胚がすべて胚盤胞へ成長できるとは限りません。逆に、あまりきれいではない分割胚が、胚盤胞まで成長することもあります。また、胚盤胞まで成長できても、殻(透明帯)から出ることができずに着床まで達しないこともあります。そこで、セント・ルカでは少し殻に孔をあけて出やすくした上で、出てきたところを確認して移植するという「脱出胚盤胞移植」を一部の患者さん(体外受精反復無効例)に試みて良好な成績が出つつあります。(妊婦率 39.5% 2000.11.21～2001.4.17)



## ✿ 不妊因子が卵管上皮細胞に与える影響 ✿ 研究室 熊迫陽子

不妊の患者さんにはさまざまな要因が考えられますが、その一つに、最近増加傾向にあるクラミジア感染が挙げられます。腹腔鏡手術を行った患者さんから卵管采の組織を少量いただいて培養器の中で培養した結果、クラミジアに感染している患者さんの細胞はあまり発育しませんでした。また、腹腔鏡時に卵管采を観察すると、その形は良くなって、排卵後の卵子を卵管の中に獲得する能力が低下していると考えられます。また、子宮内膜症の患者さんも同様に、細胞が良好に発育しないという傾向がみられました。クラミジア感染、子宮内膜症は早期に治療する必要があると思われました。

## ✿ FISH法を用いた再凍結胚の染色体分析 ✿ 研究室 大津英子

近年卵の凍結方法が飛躍的に向上し、前核期の胚を凍結・融解後、再び胚盤胞期に再凍結できるという可能性が出てきました。1個の卵も無駄にしないすばらしい事なのですが、2回の凍結・融解を繰り返すため、卵の受けるダメージが危惧されます。特に心配なのが染色体異常です。そこで患者さんの同意の上で、再凍結胚の染色体分析を行ったところ、染色体の数的異常は増加しないことが示唆されました。

# 看護婦だより

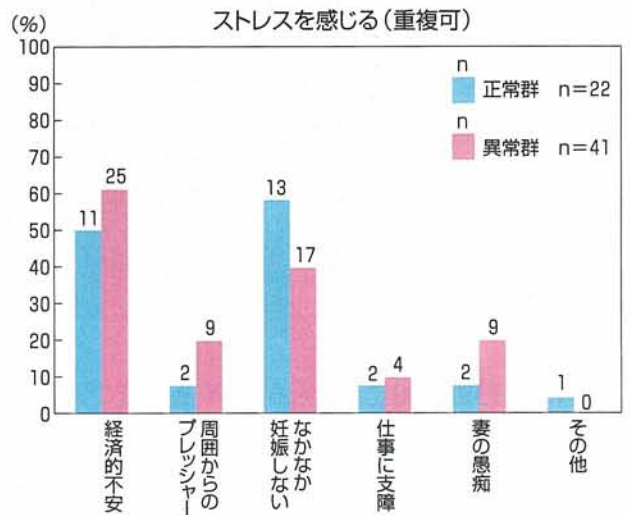
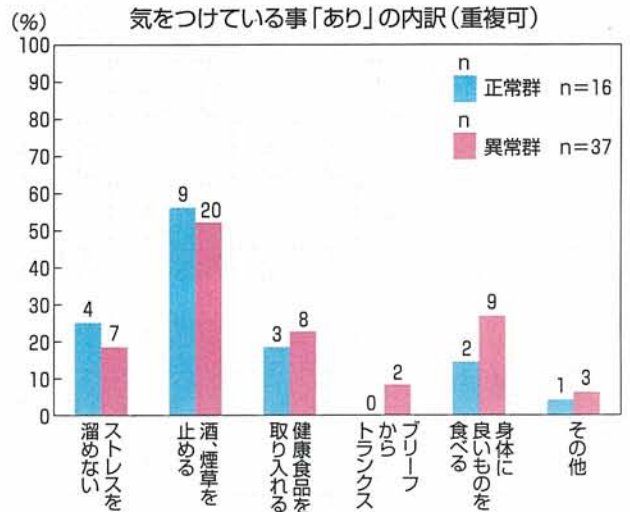
看護部 宿利佳子

この度、IVF(体外受精)を受けている夫婦の内、夫のみへ質問紙による調査を行いました。

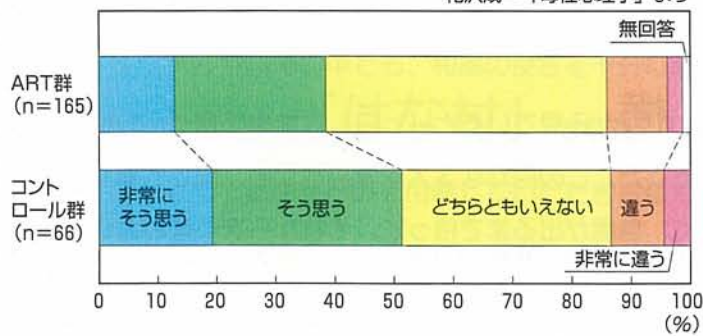
期間は2000年3月～10月まで、回収率は86.2%でした。この結果をまとめ、2001年春季九州不妊学会で発表しましたので、その一部を掲載します。詳しくは今後外来にて掲載予定です。

## まとめ

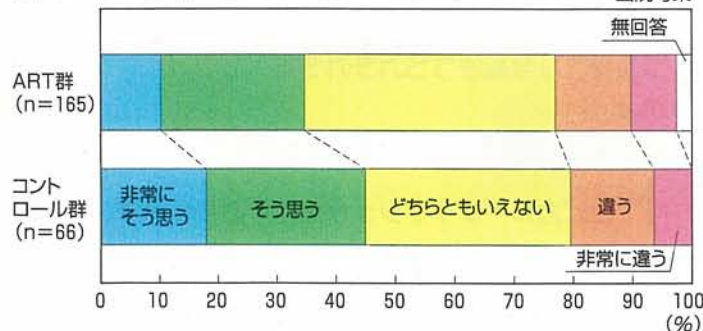
- ①WHOが定めている精液性状の正常範囲内に於いて、自分の精液が異常であると言われた人は無回答を含めると全体の約6割を占めていました。
  - ②男性はIVFを受けるにあたり酒、煙草をひかえたり、特に精液が異常と言われた人ほど、身体に良いものの摂取に気を遣っている割合が多く見られました。
  - ③IVFを受ける事で、様々なストレスを受け体調にも影響を受けている人は、異常の人に多く見られました。
- 不妊に悩むのは妻だけではなく、夫もまた男性なりの立場から悩みを抱えているのだという事を御理解いただけると幸いです。質問紙にご協力いただき、ありがとうございました。



女は子供をもつことで人生の価値を知ることができる  
花沢成一「母性心理学」より



「子はかすがい」というが夫婦生活をおくるうえで  
子供のいない生活は考えられない  
当院考案



看護部 柴田令子

このアンケートは、当院で(体外受精後)妊娠し、出産された方々と、市内の保育所に通う園児を持つ一般の母親の意見を比較したものです。そのアンケート結果より以下の事がわかりました。

不妊治療を行っている患者さんの殆どは、出産や育児、子供の存在そのものに対する依存心や、執着する気持ちが一般の母親より強いのではないかと考えていましたが、今回のアンケート結果では、不妊治療を行っている患者さんは、不妊夫婦であったために、普通の夫婦より夫婦だけの人生について考える機会も多く、また子供の居ない人生も十分覚悟していたと考えられました。そのため、子供の存在だけに人生の価値や夫婦で生きる意味を求めのではなく、子供以外にも生き甲斐を見つけようとする前向きな姿勢であったことがわかりました。

# グアムで潜ってきました。

院長 宇津宮 隆史

**職**員旅行をどうするか、昨年から考えていてふと、「またグアムにすれば正々堂々と潜れる」ことに気がつきました。そこで提案、「職員旅行はグアムにしよう!!。」そこで若い3人、やや若い（先日まで若かった）の3人とわたしの7人で行ってきました。

グアムは1973年に新婚旅行で、また1995年に職員旅行で行った所で、それほど珍しくも無いところですが、今回はあの「ブルー・ホール」があります。期待に打ち震えてやってきました。

**第**1日目、船で港から15分くらいでブルー・ホールのポイントへ。ここはドロップ・オフの端っこの12メートルの深さのところに直径8メートルほどのハート型の穴があいており、そこからその穴に入り、垂直に37メートルまで潜降し、さらに横に数メートル行ってドロップ・オフに出るというもので、わくわくものでした。しかも、まだ誰も来ておらず、貸切り状態で、まったく穢れの無い、クリアーなブルー・ホールを経験できました。

**ホ**ールの中から上方を見上げると、ハート型の青い窓



が開いていて、その中に自分のエアークラスが昇っていくのが見えます。差し込んでくる光がきれいでした。誰もいないため、本当に神秘的に美しい景色でした。ニコノスVの36枚とサイバーショットの40枚を瞬く間に消費してしまいました。

**さ**て翌日、今日は我がスタッフのA、B、C、D、E、Fの6人と、「ヒロ」と「エリック」のふたりのガイドで2ダイブ。まず、ビーチから歩いて腰の深さまで行き、そこで顔を浸ける練習。若い3人は難なくクリアー。やや若い3人は四苦八苦。「ぷはー!」「げぼっ!」と、潜るところか「海面での移動もだいじょうぶ?」といった感じ。しかし、Aはすぐに慣れたようで、Bは努力して自分なりの自信をつけて行き、何とか顔を浸けるようになり、Cがもっとも大変。後で知ったことですが、「かなづち」とのこと。仕方ないか。

**横**から見ていると「ヒロ」は本当に素晴らしいガイドでした。この厄介な3人を誉めながら、決して急ぐことなく、自信が出るまで待って、それから次に進むという、本当に「プロ」と思いました。そのうちなんとかみんな頭も浸けることができるようになり、それからはかなり順調にダイビングの格好がついてきました。若い3人はそのころはすでに自由に潜りまわっていました。「あいつら、神経が図太いか、鈍いか、はたまた怖いもの知らずのいいところか。」

**ト**ロピカル・フィッシュが色とりどりに泳ぎ、ソーセージでフィーディングするともう顔も見えないくらい集まってきて、やや若いA、B、Cの3人も傍目には楽しんで



いるように見えたが、ソーセージを持っている手が固まっていた。

**移**動途中でひとりが遅れているのに気づきましたので寄っていくと、「息が苦しい」と、さっき習ったばかりの手信号で訴えます。なるほど目が釣りあがっていて、吐く息がほとんど無く、「これこれ、パニック」と我が昔の姿を思い出しつつ、まず、手を握り、目を見つめ、「息を吐きなさい」と何度も手信号で言うと次第に落ち着いてきたようで、最初は「水中10mでレギュレーターをはずしたらどうしよう」と思ったほどでした。しかしガイドもやってきて落ち着かせてくれて、その後はペースを落としてガイドしてくれ、水中を楽しむ余裕が出たようでした。これでガイドの「ヒロ」はやや若い3人を引っ張って廻る羽目になりました。なにしろ、重たい3人が両腕にしがみついているばかりで満足なフィン・キックもしないので、大変だったと思いますヨ。

30分ほどで終了。そのころはみんな余裕ができていました。いちど、ショップまで行き、やすんで2回目。今度は海中展望塔のすぐ下の階段から直接10メートルほど潜降。6人とも余裕で潜行して行きました。展望塔の周り



を回り、展望窓から中をのぞきこみ、海底まで行き、ソーセージをお魚さんたちにあげ、マ、楽しい2本目でした。

それにしてもあのガイドの「ヒロ」は本当に頼り甲斐のあるいいガイドでした。「フリー・ガイド」とのこと、結構ハンサムでしたのでファンは多いのではないかと思います。

これで我がスタッフのなかにもダイビングを経験したのが6人できました。帰ってからデジカメの映像をほかのスタッフに紹介したら歓声を上げていました。その中にもダイビングに興味を持ったのがいると思います。今後、ダイビング人口が増える可能性もあります。こうなったら毎年職員旅行はグアムか沖縄!!。



# 社員旅行 パート2

## 社員旅行

# IN グアム

2001年5月16日～5月19日



グアムに行ってきました。外国とは思えない日本人の多さ……。ただ、海の綺麗さには感動!! そしてスキューバダイビングは驚きの連続。人懐っこいお魚と大量のなまこには本当にビックリ。機材の重さに苦しみつつも海の中はもう別世界でした。海中でふわふわとしている感覚が忘れられそうになくライセンスが欲しいかもなんて思いつつ。

# 社員旅行 IN 北海道

2001年2月16日～2月18日



北海道は、でっかいどう!!

なんてったって、見渡す限りの雪・雪・雪……  
贅沢なことに、2日間で天狗岩スキー場とキロロスキー場を満喫しました。(でも最後のほうは疲れた…、  
というのと、まだまだ滑りたい…、とのジレンマで、半分ヤケクソになって滑ってました。)

腕前も教え方もプロ級に上手いK. Yさんの指導のもと、みんな上手くなったし、けがもなくてよかったです。

3日目は小樽の裕次郎記念館に行き、「裕ちゃん、いいよねえ。」とみんなで目をハートにし、その後は吉本に行きダウンタウンや藤井隆らとプリクラを撮り…と、大変充実した職員旅行でした。

## NEW職員紹介



看護部 小野陽子

5月にセント・ルカに就職しました。  
看護婦7年目です。今までは、  
整形外科と産婦人科で仕事を  
していました。  
只今、不妊治療の勉強中です。  
皆さんに教えて頂く事も  
沢山あると思います。  
頑張っていきます。気軽に  
いつでも声をかけてください。



検査部 佐藤晶子

セントルカで働きはじめて3  
ヶ月が過ぎようとしています  
が、毎日が充実していて時  
間がたつのがとても早く感  
じています。  
まだ、これから覚えること  
や勉強することがたくさんあ  
ると思いますが、楽しみなが  
らやっていきたいです。  
どうぞよろしくお願いいたします。



受付・情処 梅田麻衣

優しく、厳しい先輩方に  
囲まれて、仕事というもの  
に初めてやりがいを感じな  
がら、充実感いっぱいの毎  
日を送っています。  
これからも向上心を持って  
頑張りますので、よろしく  
お願いします。



看護部 河口美紀

マイペースの河口です。  
足手まといにならない様  
に頑張りますので、よろし  
くお願いします。



検査部 佐藤千賀子

最初は不妊治療という自  
分にとって新しい分野のす  
べてが驚きの連続でしたが  
、セント・ルカに勤務する  
ようになり3ヶ月が過ぎて  
ようやく当初より慣れてき  
ました。しかし、まだ学ば  
なければならぬことが多い  
ので、一生懸命がんばりた  
いと思います。



## ♥ 受付からのお願い ♥

長年の私達の夢でありました、待合室を広く……の  
願いが叶い7月中旬より改装工事に掛るようになり  
ました。

工事期間は2ヶ月間が予定されています。  
期間中は玄関が裏の職員通路側になり仮設の受付が設

置されます。

今までと勝手がちがいますが受付手順は同じです。  
患者の皆様にはたいへんご不自由をおかけいたします  
が私共も精一杯頑張りますのでご協力をお願いいたし  
ます。

## 2001年を振り返って

<p>1. 4 セント・ルカ産婦人科新年会（セント・ルカ多目的ホール）</p> <p>1.20 新職員 河口美紀さん（看護部）</p> <p>1.12 ビデオ製作講習（福岡）参加&lt;工藤&gt;</p> <p>1.20 第45回体外受精教室 参加者22名 参加&lt;首藤、清原、赤嶺、原井&gt;</p> <p>1.22 高度生殖医療技術研究所 所長 荒木康久先生ご来院・ご指導</p> <p>1.27 第1回赤ちゃんが欲しい講座（大分・ホテルくれべ）参加79名 講師&lt;院長&gt;参加&lt;首藤、城戸、松元、関、小濱、河口、品矢、實崎、原井&gt;</p>	<p>5.19 セント・ルカ産婦人科職員旅行（湯布院コース） 参加&lt;矢野、後藤、梅田、越名、佐藤晶、佐藤千、松元、小濱、宿利、河口&gt;</p> <p>5.21 新職員 小野陽子さん（看護部）</p> <p>5.26 第50回体外受精教室 参加者17名 参加&lt;梅田、佐藤千、佐藤晶、工藤、小野、小濱&gt;</p> <p>5.26 第10回ガーネットサークル OG 2名 参加者9名 参加&lt;實崎、柴田、磯崎、上野&gt;（セント・ルカ談話室）</p> <p>5.27 加藤レディースクリニック見学（東京）&lt;熊迫、長木&gt;</p> <p>5.31 第42回 日本哺乳動物卵子学会（東京）&lt;公文、大津&gt;</p>
<p>2. 3 第9回ガーネットサークル OG 2名、参加者8名 参加&lt;河口、實崎、磯崎&gt;（セント・ルカ談話室）</p> <p>2. 7 第4回不妊相談セミナー（東京）参加&lt;實崎、原井&gt;</p> <p>2. 8 平成13年度第4回ヘルスリズナー技法研修（大阪）参加&lt;指山&gt;</p> <p>2.16 セント・ルカ産婦人科職員旅行（北海道スキーコース） 参加&lt;公文、熊迫、長木、品矢、實崎、工藤、内藤&gt;</p> <p>2.19 高度生殖医療技術研究所 所長 荒木康久先生ご来院・ご指導</p> <p>2.24 第46回体外受精教室 参加者30名 参加&lt;渡邊&gt;</p> <p>2.20 第74回大分周産期研究会（大分）発表&lt;品矢&gt; 参加&lt;渡邊、城戸、公文、大津、松元、関、小濱、宿利、二宮、河口、齊高、岩本、原井、實崎、磯崎、指山、院長&gt; 「不妊治療中に流産となった患者の心理」（品矢悦子）</p>	<p>6. 3 産婦人科情報処理担当者会（大阪）発表&lt;工藤&gt;</p> <p>6. 9 第8回 不妊カウンセラー・体外受精コーディネーター養成講座（東京） 参加&lt;上野、品矢&gt;</p> <p>6.18 高度生殖医療技術研究所 所長 荒木康久先生ご来院・ご指導</p> <p>6.23 第51回 体外受精教室 参加者18名 参加&lt;梅田、工藤、佐藤千、佐藤晶、小野、磯崎&gt;</p>
<p>3. 3 第47回体外受精教室 参加者32名 参加&lt;佐藤千、佐藤晶、城戸、河口、原井、實崎&gt;</p> <p>3.10 医療と社会セミナー（弘前）発表&lt;院長&gt;参加&lt;平井・品矢&gt;</p> <p>3.19 高度生殖医療技術研究所 所長 荒木康久先生ご来院・ご指導</p> <p>3.24 第48回体外受精教室 参加者23名 参加&lt;関、柴田&gt;</p>	<p>7.12 第19回 日本受精着床学会（神奈川）発表&lt;城戸、平井、大津、熊迫、長木、原井、實崎&gt; 参加&lt;院長&gt; 「HFF99Medium使用による臨床成績」（平井香里） 「FISH法を用いた再凍結胚の染色体分析」（大津英子） 「不妊因子が卵管上皮細胞の培養に与える影響」（熊迫陽子） 「体外受精反復無効例に対するHatching ETの試み」（長木美幸） 「IVFを受ける夫の精液検査結果での心理と現状」（原井淳子） 「減胎手術の経験が患者夫婦に及ぼす影響」（實崎美奈）</p>
<p>4. 2 新職員 佐藤千香子さん、佐藤晶子さん（研究室） 上野桂子先生（看護部）</p> <p>4. 5 セント・ルカ産婦人科&amp;メディテック・ルカ合同お花見、歓迎会（裏川公園 大分）</p> <p>4. 7 第2回赤ちゃんが欲しい講座（大分・ソレイユ）参加者53名 講師&lt;院長&gt;参加&lt;内藤、工藤、大津、渡邊、佐藤千、佐藤晶、首藤、大津、関、小濱、二宮、河口、柴田、品矢、實崎、原井、指山、齊高&gt;</p> <p>4.15 平成13年 第47回 日本不妊学会春季九州支部会（福岡） 発表&lt;宿利、品矢、大津、熊迫、長木&gt;参加&lt;公文&gt;座長&lt;院長&gt; 「IVFを受ける夫の精液検査結果での心理と現状」（宿利佳子） 「当院における「ハッとメモ」報告」（品矢悦子） 「FISH法を用いた再凍結胚の染色体解析」（大津英子） 「ヒト卵管上皮細胞を用いた生殖医療における臨床的有用性の検討」（熊迫陽子） 「3日目胚移植におけるHFF Mediumの臨床成績」（長木美幸）</p>	<p>7.15 第30回日本女性心身医学会学術集会（京都）発表&lt;柴田&gt;参加&lt;品矢&gt; 「腹腔鏡前後の心理状態と精神的ストレス」（柴田令子）</p> <p>7.21 第52回体外受精教室</p> <p>7.28 第3回赤ちゃんが欲しい講座（大分・トキハ会館） 講師&lt;院長&gt;</p>
<p>4.19 エンゼル・クリニックビデオ編集視察（大分）&lt;工藤&gt;</p> <p>4.23 高度生殖医療技術研究所 所長 荒木康久先生ご来院・ご指導</p> <p>4.20 第13回大分市医師会産婦人科・内分泌・不妊・代謝懇話会（大分） 参加&lt;工藤、内藤、大津、渡邊、城戸、公文、平井、大津、熊迫、長木、小濱、松元、二宮、齊高、原井、實崎、柴田、磯崎、指山、院長&gt;</p> <p>4.23 新職員 梅田麻衣さん（受付）</p> <p>4.24 原三信病院（福岡）より永田 治先生、石井 愛先生 研究室見学</p> <p>4.23 第49回体外受精教室 参加者33名 参加&lt;梅田、工藤、内藤、佐藤千、佐藤晶、品矢、上野&gt;</p> <p>4.28 第53回日本産婦人科学会（北海道）参加&lt;院長&gt;</p>	<p>8. 高度生殖医療技術研究所 所長 荒木康久先生ご来院・ご指導</p> <p>8. 第53回体外受精教室</p> <p>8. 4 2001: An ART Odyssey Challenges and Strategies in Assisted Reproductive Technology 発表&lt;大津、熊迫、長木、實崎&gt; 参加&lt;院長&gt; 「Chromosome analysis of human refrozen blastocysts following fluorescence in-situ hybridization」（大津英子） 「Influence of the fallopian epithelial cells growing in vitro culture by infertile aspects」（熊迫陽子） 「The efficacy of hatching stage embryo transfer in multiple failures in in-vitro fertilization and embryo transfer.」（長木美幸） 「The influence on couples treated with multifetal pregnancy reduction」（實崎美奈）</p>
<p>5.16 セント・ルカ産婦人科職員旅行（グアムコース） 参加&lt;城戸、平井、大津、渡邊、二宮、原井、院長&gt;</p>	<p>8.18 第8回セント・ルカセミナー懇親会（ホテル白菊）</p> <p>8.19 第8回セント・ルカセミナー（セント・ルカ多目的ホール） 講師 久保 春海 先生&lt;東邦大学医学部教授&gt; 講師 柳田 薫 先生&lt;福島県立医科大学助教授&gt; 講師 阿部 宏之 先生&lt;扶機能性ペプチド研究所 主任研究員&gt; 講師 中澤 照喜 先生&lt;扶薬薬品工業(株) 研究開発センター&gt; 座長 荒木 康久 先生&lt;高度生殖医療技術研究所&gt; 座長 宮川 勇生 先生&lt;大分医科大学 産科婦人科 教授&gt;</p>

### 編集後記

4月から心理士の上野先生が私達の病院に来てくれています。私達スタッフ一同とても心強いです。とても気さくな先生ですので、ちょっとした悩み事、心配事などありましたら、なんでも上野先生に相談して下さいね。上野先生も待っています。

右の写真はDr.のお話の中で登場した、やや若いABCです。広～い海の中なのに固まっていますよね。3人とも必死だった様です。

しかし、帰ってきてまた潜りたいと言っていました。とても楽しかったみたいですよ！

みなさんも機会があればぜひ潜ってみて下さい。



### 妊娠報告件数

(2001.1.5~2001.6.28)

体外受精、顕微授精等

**81件**

\*

体外受精以外

**74件**

**計 155件**